



い勢いで普及し、ますますソフトとハードの境目がなくなってきました。そこで、できるだけ無線機としてのハードは、ソフト・ハードいずれでも再構築できる環境を提供するだけの共通プラットフォームとして設計し、後はソフト（FPGAのネットリストを含む）をダウンロードすればどんな無線機にでも変身できることを目指したものです。

ソフトウェア無線機は、しかし従来の電波管理行政からすると厄介なしろものです。これまでの無線機自体に免許を与えることが難しくなります。ソフトウェア無線機では中に回路情報やアルゴリズムをダウンロードしなければ、何も機能しません。そのような無線機をどのように認定するかは全く新しい課題です。しかし、最近の情報ではFCCが承認の方向に向かっていきますので、この流れはとめることはできないでしょう。

これら環境的な要素と、前節で説明したことで、なぜデジタル無線通信かとの問いに対する回答はすでに得られていると思います。個人的には、今日の無線は、明らかにコンピュータデータ通信を実現する便利な手段として世間の注目を集めている気がします。従来は、音声、映像、データなどそれぞれ特徴に合わせて無線設備を選ぶ必要がありましたが、コンピュータ・ネットワークいわゆるブロードバンド通信ということで考えれば、流れるデータの種類は何でもよいのです。要するにデジタルデータだったら音声であろうが映像であろうが送ることが可能となっているのです。